

資格取得で身につけたスキルを実践に活かす、将来を意識した学習体系

MOS 試験や IC³ (アイシースリー) は、進学や就職時の武器

長野市立長野高等学校

県下唯一の市立高校として、現在は男女合わせて約 500 人の生徒数を有する長野市立長野高等学校。2008 年度より、男女共学の長野市立長野高等学校(総合学科)として学科改編・学校名が刷新された同校では、学校内で受験できる環境が整備されており、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(以下、MOS 試験)や IC³(アイシースリー)(※1)に取り組んでいます。これらの資格試験が導入された経緯や取得後の学生の意識の変化などについて、情報科 教諭 阿部 栄智さんと商業科 教諭 樽沼 徹さんにうかがいました。

資格試験の取り組み経緯 ―― 高度な資格取得ニーズが契機に

2008 年度より、これまでの女子校から男女共学の新しい高校としてスタートした長野市立長野高等学校。

同校は、1919 年(大正 8 年)に開校された『市立長野実科高等女学校』を前身としています。

この女子校は、その後、数度の合併と名称変更を経て、1963 年に市立第二高等学校と統合。統合後は、長野市立皐月高等学校(普通科と被服科を併設)という学校名として 45 年にわたり多くの学生を送りだしてきました。

学内における資格試験の取り組みは、この皐月高等学校という名称だった 2006 年からはじめられました。

「皐月高校の頃は、情報コースのなかでの学習目標に沿って、さまざまな検定や資格の取得に取り組んでいました。しかし、学習が深まるにつれて、より高度な資格取得を目指す生徒が現れはじめたことから、コンピュータの操作から情報関連の知識まで幅広く学習できる IC³(アイシースリー)を授業や部活動に導入しました」

この IC³の導入を契機に、2007 年には学校で試験を実施できる試験会場登録を行い、生徒が学内で資格試験を受けられる環境を整えたとのこと。さらにその後、生徒たちが地域に住む方々にコンピュータの操作方法を教える『パソコン講習会』を実施することとなり、「総合的な学習の時間」のなかで、IC³に続いて MOS 試験の Word と Excel[®]にも取り組むことになりました。

「この『パソコン講習会』の経験は、学校で学んだことを地域の方々に還元できるのみならず、資格取得のための勉強によって身につけたスキルが、“実際にどのように役立つのか”ということを実践を通して認識することができたため、生徒にとってとても良い機会になったと思います」

授業における資格試験の導入 ―― 校内で受験できる環境を整備

現在の長野市立長野高等学校では、MOS 試験は 2 年生と 3 年生共修の選択科目「アプリケーション実習」(商業教科の学校設定科目)と 3 年生の選択科目「情報実習」(情報科目)の授業で、そして IC³は、2 年生の選択科目「情報リテラシー」(商業教科の学校設定科目)の授業のなかで資格取得が一つの目標とされています。また、これらの科目は、1 年時の必修科目「情報 B」で学習してきたことを基に、さらに学習を深めたいとする生徒が履修しているそうです。

「アプリケーション実習」では、MOS 試験の Word と Excel の受験が必須とされています。「情報実習」では、生徒の進路や興味に応じて、MOS 試験をはじめとする各種の検定試験への取り組みやコンピュータの組み立て、VBA を利用したアプリケーション作成などの実習を行っています。そして、IC³の受験が必須とされている「情報リテラシー」では、コンピュータの操作方法や情報に関する知識を中心とした座学 50%、実習 50%の割

長野市立長野高等学校
<http://www.nagano-njn.ed.jp/ichinagahs/>

所在地 長野県長野市大字徳間1133番地
学生数 489人 (2011年5月現在)

合で授業が進められており、コンピュータのシステム設定やオペレーティングシステムの働き、周辺機器との接続やプログラムの登録などといった実習を交えながら IC³ の取得を目指しています。

実際の受験は、校内に受験しやすい環境が整っていることもあり、特に MOS 試験の受験者は年々増加しているとのこと。また、推薦入試などで大学進学が決まった生徒が高校在学中に MOS 試験を受けるケースも多く、放課後は試験勉強用にコンピュータ教室が開放されています。さらに、同校の卒業生であれば、卒業後も受験できる体制が敷かれています。

このような学習環境の充足と併せて、受験に際してもきめ細かいアドバイスを行っています。

「生徒が受験する際は、学校が設定した合格ラインを超えてから受験の申込みをするよう促しています。生徒の学習状況の進捗に応じて試験日を調整できる点は、試験会場登録をしているメリットの一つですね」

資格取得がさらなる学習意欲の向上に ―― 資格で得たスキルを幅広く活用

MOS 試験や IC³ を受験する生徒の多くは、経営、経済、経営情報学科などのある大学への進学や事務職への就職を希望しています。本校では推薦入試で大学を目指す生徒も多いため、これらの資格は大きな武器になっています。

こうした資格取得で力をつけた生徒は、IT パスポートや基本情報技術者試験などのほかの資格も目指すようになるなど、その他の学習意欲の向上にもつながるといった相乗効果も大きいと感じています。さらに最近では、高校在学中にマイクロソフト オフィス スペシャリスト マスター(※2)を取得する生徒も出てくるなど、資格取得に対する意識は高まってきているようです。

「MOS 試験は実技中心の内容のため、生徒に人気があります。実践的かつ、取得後の達成感を感じられる資格のようです。これからも、生徒たちが学んだことを資格取得だけにとどまらせないよう、ビジネスや行事等で使えるようなテンプレートを作成したり、身につけたスキルを還元できる機会となる『パソコン講習会』のような実践的な企画を考えて実施していきたいと思います。一方の IC³ は、コンピュータに関する知識を広く身につけることができるため、本来ならば情報分野を学びたい生徒の基礎科目として定着させたいところです。今後も、実習を交えながら生徒が楽しく学べるような授業を行っていきたいと考えています」

※1 IC³ (アイシースリー)

コンピュータとインターネットの国際資格。知識、スキル、モラルを磨く、3つの試験科目を通じて総合的に判定して能力を証明する。CompTIA や ACE (アメリカ教育協議会) をはじめとした、9つの国際的な教育・IT 団体・政府機関から推奨・公認されており、「IT リテラシーの国際基準」として全 11 の言語で実施されている。アメリカやニュージーランドでは、取得を単位に認める高校・大学もあるなど、海外留学の機会にも注目されている。

※2 マイクロソフト オフィス スペシャリスト マスター Microsoft Office の同一バージョン (Office 2010、Office 2007、Office 2003) のなかで、所定の 4 科目に合格したすべての方に贈られる称号。取得後は、Office 製品の複数のアプリケーションを使いこなす総合的なスキルを証明するマイクロソフト スペシャリスト オフィス マスターの認定証が発行される。

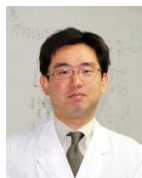
■Microsoft、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■INTERNET COMPUTING CORECERTIFICATION IC³ は、Certiport Inc. の登録商標または商標です。

1919年(大正8年)に市立長野実科高等学校として開校。その後、数度の合併と名称変更を経て、1963年(昭和43年)に市立第二高等学校と統合し、普通科と被服科を併設する長野市立皇月高等学校となる。2008年度(平成20年度)より長野市立長野高等学校(総合学科)として学科改編され、第一期生が入学。これまでの女子校から、男女共学の新しい高校がスタートした。県下唯一の市立高校で、489人(男子180人、女子309人)が新校舎にて諸活動に励んでいる。2011年(平成23年)3月、第一期生が卒業。国公立大学をはじめ90%以上の生徒が進学している。



情報科 教諭
阿部 栄智さん



商業科 教諭
樽沼 徹さん